

シラバス詳細

タイトル「2024年度 人間学部」、カテゴリ「大学 人間-人間福祉学科」

科目情報

科目名	英文科目名
[[[地域福祉と包括的支援体制 I]]]	
他学部他学科履修可否	クラス
○	1
担当教員	実務経験のある教員による授業科目
中島修	
学年	開講学期
2年	前期
開講時期	曜日・時限
前期	月5
講義室	科目種別
W-207	講義
ナンバリング	科目区分
CSWK202342	社会福祉専門科目
単位区分	単位数
選択	2
キャリア該当科目	備考
ディプロマポリシー	直接参照URL
1. 自己を確立し、他者と関わり、社会のさまざまな場面で困難に直面している人々に共感し、他者と関わる基礎的スキルを活かして、社会福祉に関連する課題を解決することができる。 2. 社会福祉や福祉マネジメントに関する専門的知識や技術を身に付け、それらを実際の社会におけるさまざまな場面で活用することができる。	https://portal.bgu.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=216100134304&formatCD=1

講義情報

授業の目的・到達目標

(授業の目的・ねらい)

地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について学習した上で、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念を理解する。また、地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について学習し、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。そして、地域福祉における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することを目的とする。

(授業修了時の達成課題（到達目標）)

- 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について説明できる。
- 地域に福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念について説明できる。
- 地域福祉を推進するための福祉行政の実施体制と果たす役割について説明できる。
- 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的および展開について説明できる。
- 地域福祉と包括的な支援体制の取組における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を説明できる。

授業概要

[授業全体の内容の概要]

地域福祉の動向を踏まえ、地域福祉における主体と対象、住民の主体形成の概念を理解しつつ、地域福祉を推進するために福祉行政、地域福祉計画をはじめとした福祉計画を理解する。その上で、包括的支援体制の考え方や地域生活課題を踏まえ、地域福祉と包括的支援体制における具体的な取組を学んでいく。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 地域福祉と包括的支援体制の基本的な考え方の理解 - オリエンテーション
- 2 地域福祉の歴史と具体的な展開の理解
- 3 地域福祉の動向の理解 (コミュニティソーシャルワーク、地域再生、ケアリングコミュニティ)
- 4 地域福祉の推進主体 (地方自治体、社会福祉協議会、民生委員等) と対象の理解
- 5 地域福祉の主体 (地域住民、ボランティア、当事者等) と住民の主体形成概念の理解
- 6 地域福祉を推進する福祉行政の役割Ⅰ (国の役割、法定受託事務と自治事務)
- 7 地域福祉を推進する福祉行政の役割Ⅱ (都道府県と市町村の役割)
- 8 地域福祉を推進する上での国と地方の関係
- 9 地域福祉を推進する福祉行政の組織及び専門職の役割
- 10 地域福祉を推進するための公的財源と民間財源
- 11 地域福祉を推進するための福祉計画の意義と目的及び展開
- 12 市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容と地域福祉活動計画
- 13 地域福祉を推進する福祉計画の意義と種類、策定と運用
- 14 地域福祉を推進する福祉計画の実施と評価
- 15 全体のまとめ

各回の授業内容

学習演題 (予習・復習)

第1~4回目は、予習として、教科書の第1章と第2章pp.1~40を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)

復習として、授業内で触れた内容について、キーワードおよび事例を整理してまとめておくこと (90分程度)。

第5~7回目は、予習として、教科書の第3章・第4章・第5章pp.41~87をよく熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)。

復習として、授業内で作業をしながら考えた地域や生活圏の捉え方を復習し、地域とはどのようなものか整理しておくこと (90分程度)。

第8~9回目は、予習として、教科書の第6章・第7章pp.88~112を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)

復習として、地域福祉の理論編であるため、わからない用語を調べ、地域福祉の考え方が理解できるように整理しておくこと (90分程度)。

第10~12回目は、予習として、教科書の第12章pp.221~225を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)

復習として、福祉教育については、授業内で資料を配布するため、視聴覚教材やパワーポイント資料を読み返し整理しておくこと (90分程度)。

第12~15回目は、予習として、教科書の第8章pp.113~132を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)

復習として、地域福祉の方法論に入るため、授業内で見た視聴覚教材やパワーポイント資料を読み返し整理しておくこと (90分程度)。

第16~17回目は、予習として、教科書の第8章pp.113~132を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)。

復習として、コミュニティソーシャルワークの考え方を整理し、理解できるよう整理しておくこと (90分程度)。

第18~20回目は、予習として、教科書の第9章・第10章pp.133~161を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)。

復習として、地域福祉を進めるインフォーマルな組織としくみの理解として内容が細かくなるため、1つずつ丁寧に整理しておくこと (90分程度)。

第21~23回目は、予習として、教科書の第11章・第12章pp.163~230を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)。

復習として、コミュニティソーシャルワークの具体的な援助方法などわからない用語などを整理して質問できるようにしておくこと (90分程度)。

第24~26回目は、予習として、教科書の第13章・第14章pp.231~263を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)。

復習として、地域包括ケアシステム、貧困問題、住民主体の活動等、時事問題を復習し整理しておくこと (90分程度)。

第27回目は、予習として、教科書の第15章pp.265~278を熟読し、地域福祉財源としての公的財源と民間財源の問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)。

復習として、授業内で触れた地域福祉財源の課題に関心をもち、ふるさと納税やクラウドファンディングなどについて自ら意欲的に問題を調べてみる (90分程度)。

第28~29回目は、予習として、教科書の第16章pp.279~298を熟読し、時事問題に触れ、参考文献等を探していただくこと (90分程度)。

復習として、授業時に配布した資料に基づいてイギリスを中心とした欧米の実践と韓国などの東アジアの実践を分けて整理しておくこと (90分程度)。

第30回目は、定期試験を行うため、予習として、これまで学んできたことを整理し、わからない用語や理解が不十分な事項を見直しておくこと (90分程度)

復習として、定期試験に出題された内容を振り返り、将来の国家試験対策にもつながるよう間違えた問題とできた問題とをそれぞれ整理しておくこと (90分程度)。

授業方法

講義形式をとる。パワーポイントによる講義を中心として、講義用の資料を配布する。適宜、福祉現場を理解するため視聴覚教材も活用する。毎回、リアクションペーパーの提出を求める。アクティブラーニングとして、授業内で学生に課題を提示して記述をさせ、発表する機会を設ける。その学生のプレゼンテーションに対して、授業内で教員から助言、指導のフィードバックを行う。

成績評価の基準

[単位認定の方法及び基準]

ミニレポートの提出状況や内容 (30%)、期末試験 (70%) により、到達目標に基づいて総合的に評価する。

(フィードバック方法)

授業内のミニレポートについては、講評を授業内で示す。

教科書

ISBN9784641150751「ストーリーで学ぶ地域福祉」加山弾・熊田能善・中島修・山本美香共著、有斐閣、2020年

参考書

ISBN9784793513589『地域福祉と包括的支援体制 (社会福祉学習双書)』社会福祉学習双書編集委員会著 (中島執筆)、全国社会福祉協議会、2021年

実務経験のある教員による授業

○

実務経験の内容

[実務経験の内容]

○厚生労働省地域福祉専門官・東日本大震災被災地市町村支援チーム併任・内閣官房震災ボランティア連携室併任 (地域福祉政策全般、地域福祉計画、地域福祉推進市町村とのモデル事業の実施、社会福祉協議会、権利擁護、民生委員、NPO・ボランティア活動、福祉教育、孤立死、被災地支援等)。また、生活困窮者自立支援制度創設のプロセスにおいて、公設派遣村の実施やワンストップサービス、様々な生活困窮者支援や若者支援、社会福祉法人の実践現場を訪問するなど研究プロジェクトを行った。

○市町村社会福祉協議会での勤務 (ボランティアセンター、福祉教育 (コミュニティカレッジ、福祉えほん、学校・施設との連携)、小地域活動、赤い羽根共同募金、当事者組織化等)

実務経験の当該科目への活用

[実務経験の当該科目への活用]

厚生労働省地域福祉専門官や市社会福祉協議会での勤務経験から、全国の地域福祉先進事例の講義、地域福祉計画、民生委員、権利擁護、地域福祉における国と地方の関係、予算、自治体行政の地域福祉の取り組み、社会福祉協議会における小地域活動、地域福祉活動計画、ボランティアセンター、福祉教育、孤立死防止等の実践について、事例及び実践経験に基づいて話をする事ができる。また、生活困窮者自立支援制度をはじめとした、様々な政策立案や検討に関わったことから、政策ができるまでの背景やプロセスについて講義することができる。また、社会福祉法人の地域貢献の実践を共に考えてきた中で、地域公益的な取組を中心に社会福祉法人の地域化について講義することができる。また、法人後見制度運営委員の経験や権利擁護支援における成年後見制度や日常生活自立支援事業の経験から、意思決定支援を重視した権利擁護について講義できる。